



踏歌神事面 南北朝時代

熱田神宮蔵

熱田神宮で毎年正月11日に行われる踏歌神事に、高巾子役の神職がつける面である。この所役は、  
面と大きな冠をつけ、祝詞師役の詩頭が頌文を読むのに合わせて振鼓を高く捧げて数度振り、その音  
色によってその年の豊凶が占われる。

材質は桂<sup>かつら</sup>で、厚手に掘出し、表面に胡粉<sup>ごん</sup>を塗り、顎鬚<sup>あごひげ</sup>を墨で描き、両眼は眼形に沿って大きくくり抜き、墨で隈取りをしている。口は朱を留め「へ」の字に厳しく結んでいる。裏面は木地のままで、かなり荒く仕上げている。壮年男子の顔を写実的に表し、型にはまらないその表情は、室町時代以降のものとは思いたい。

## 目 次

● 「平成13年度部門別研修会」の報告	
・ 歴史民俗部門研修会	2
・ 美術部門研修会	3
・ 自然科学部門研修会	4
● 公開 !! 愛博協ホームページ	6

# 「平成13年度部門別研修会」の報告

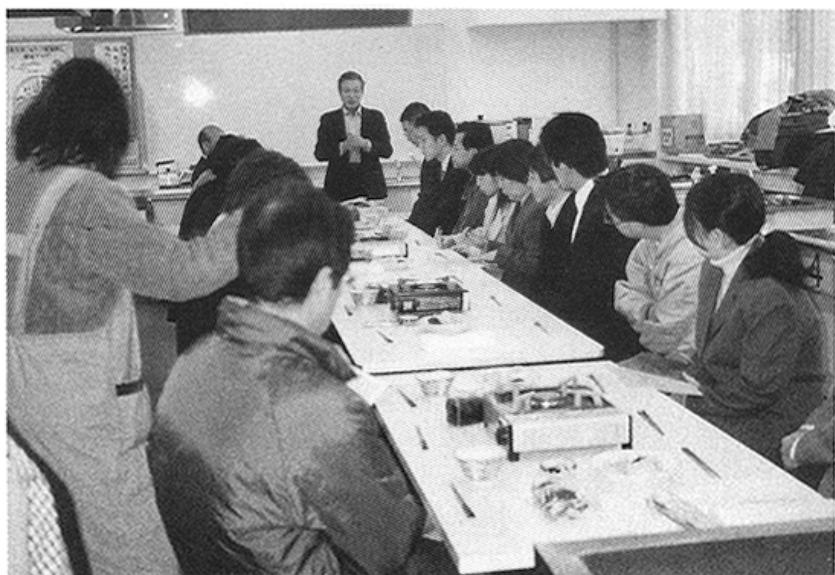
## <歴史民俗部門研修会報告>

今回の研修会は「地域・住民と博物館、資料館」をテーマとして、2月15日、武豊町中央公民館にて行われました。参加者は16名と、少しさびしい感じも受けましたが、発表者ならびに開催町の熱意のこもったお話、おもてなしにより、すぐにそれも気にならなくなりました。

最初の発表は、常滑市民俗資料館中野晴久氏による「地域博物館による中学校総合学習への対応」でした。本年4月から始まる、小・中学校週5日制に対応するための新事業については、各館とも頭を悩ませているところでしょうが、氏の発表はそれに答えるかのようでした。中野氏は、昨年4月より常滑市南陵中学校第1学年の総合学習のトータルアドバイザーとして指導されているとのことで、もう既に、他館に先駆けて新事業に取り組んでいるようでした。指導にあたって「まずは資料館に来なさい。」と言うよりも、こちらから出て行くべきだと考え、進んで学校の教壇に立ったそうです。そして、「自分たちの住んでいるまちを見つめつみよう」ということで、時間をかけていろいろな方法で調べさせ、また、発表させたのでした。調べるためには商売屋さんに聞いたり、まちの古老に聞いたり、近隣の博物館などに出かけて行くなど、いろいろな方法を仕向けたそうです。ここに中野氏の狙いがあったようです。結果よりもそこに至る経緯を重視したのでした。しかし生徒たちが調べるにも、まだまだ館側からの情報提供が少ない、という難点も指摘されました。ホームページなどによる紹介は、今後重要な役割を果たすことになり、こ

れが今後の我々の課題であると述べられました。

続いての発表は、蟹江町歴史民俗資料館伊藤和孝氏による「地域社会における博物館活動」でした。昭和59年、学芸員として資料館に配属された当時『学芸員は、外に出よ!』という、前述中野氏の論文を読んで「コレダ!」と思ったというところから話が始まりました。資料館は、学芸員の自己満足的な展示活動しかしていないのではないか、これでは住民はついてこない、との反省に立ち、平成5年頃から「立看板設置事業」を行ったとのことでした。消え行く字名等の歴史的由来を解説することにより、地元に愛着を持ってもらうことを狙いとし、また、まち全体を屋外博物館にすることを意図したものでした。また、平成11年頃からは「まちづくりグループの結成・育成事業」が実施されました。まちなみ保存やその活用に関心のある人を募り、その一人一人が学芸員となって、まちづくりを行っていってもらうというものでした。蟹江町は、近年、名古屋市のベッドタウン化が進み、今では人口の3分の2までが新住民で占められているそうです。蟹江の良さを知つてもらい、愛着を持ってもらうためにも、粘り強く



これらの活動を推し進めていっていただきたいものだと思いました。

こうして午前の部が終了し、昼食の時間となりました。しかし、さすがは武豊町さん、これがただの昼食ではありませんでした。郷土色豊かな武豊地域の昔ながらの田舎料理です。味噌を中心とした食材は、みな町内で採れたものばかりのようです。しかも、これがすべて資料館友の会はたおり部会の方々による手料理です。

せっかくですので、そのお献立をご紹介しましょう。「たまりのかけうどん、貝焼き味噌、たけのこの酢味噌あえ、煮味噌、にあい、警固山汁、きびごはん、たけとよたくわん、みかん」たけとよの味噌、溜のお話を聞きながら、たいへんおいしくいただきました。

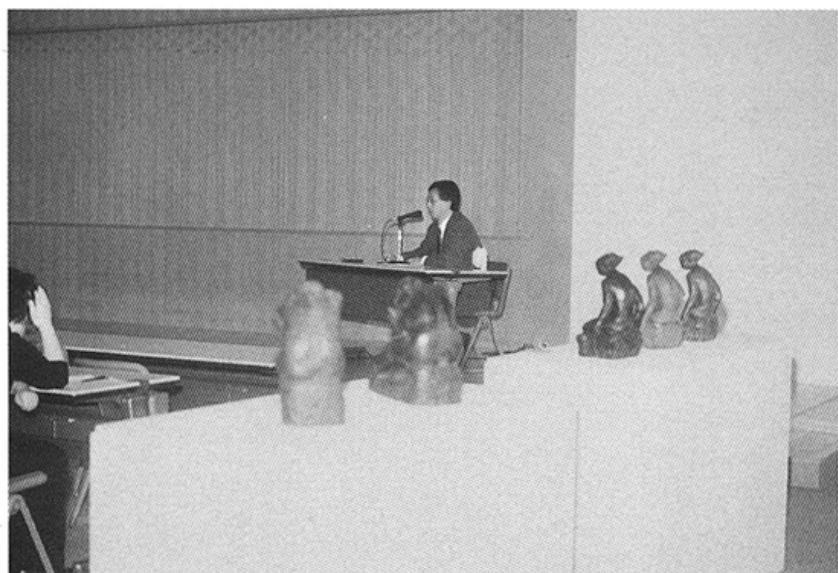
食後の休憩の後は、町内の散策でした。先達は、歩こう会世話人の利根昭平さんです。新四国巡りの札所でもある大日寺では、底冷えのする本堂で、ご住職から、寺や本尊仏の由来など聞かせていただきました。大庄屋三井家の門前を通り、味噌蔵「伝承館」を見学、中川館長自ら造ったという味噌の資料館の展示には、皆感心するばかりでした。そして最後に、沢庵工場右京商店を見学。武豊は古くから大根の産地でもあり、大量の大根漬が勢州、紀州へと送られていたとのことでした。風は無かったものの、寒さの厳しかった町内めぐりは武豊町資料館を終点とし、日程はすべて終了しました。

開催町の武豊町さん、研修担当の弥富町さん、本当にどうもご苦労様でした。また、お食事のお世話をいたしました、はたおり部会の皆さん、そしてご協力いただいたすべての方々に、参加者を代表して厚くお礼を申し上げます。

(知多市歴史民俗博物館 石川 秀男)

## <美術部門研修会報告>

美術部門の研修会は平成14年2月14日(木)と15日(金)に愛知県美術館を会場として、「鋳造彫刻作品の収蔵・展示と鋳造管理の望ましい在り方について」をテーマに開催されました。今回は全員美術館会議の学芸員研修会との合同で行われ、参加者は愛博協から17名、全美から50名(うち愛博協加盟館員3名)で、県の枠を越えた交流も見られました。



近代？ 現代の美術を収集や展覧会の対象としている美術館が取り扱う彫刻作品は、ブロンズに鋳造されたものが多くなります。この鋳造という行為は複数製作が可能であること、更には本来の原型を用いず鋳造物や石膏複製から型どりすることも可能であることにより、様々な問題が付きまといます。平成8年に全国美術館会議の分科会として発足した「彫刻の鋳造と原型管理に関するワーキンググループ」(略称BWG、幹事／事務局は愛知県美術館)は、40名を超えるメンバーで、鋳造に関する調査研究と検討を重ねてきました。今回の研修会はその報告と提言の場でした。

2月14日は「彫刻の鋳造とその問題点」を大テーマとし、日本近代彫刻の代表的な作家朝倉文夫の作品を所蔵する台東区立朝倉彫塑館の村山万介氏と、碌山美術館に長く勤めておられた



千田敬一氏（現・駒ヶ根高原美術館）にお話いただきました。村山氏の「彫刻鋳造の諸技法について」では、真土型・蠟型・ガス型・樹脂型の技法や鋳造工程について、佐藤忠良の作品制作過程記録ビデオなども用いて紹介され、各技法の長所短所や技術者育成の問題、また原型が鋳造所に預けられていることが多い実状などについても触れられました。千田氏の「日本近代彫刻の鋳造をめぐる諸問題」では荻原守衛（礎山）の作品を中心に、彫刻家仲間による善意や研究目的の没後鋳造や複製から、販売目的の悪質な孫ぬき・曾孫ぬき等々の事例が示され、粗悪な鋳造は無実の作家本人の名誉を傷つけるのだということを力説されました。

2月15日午前の大テーマは「彫刻鋳造の管理」。まず長谷川三郎愛知県美術館館長の「ロダンの作品鋳造の歴史的展開と、フランスの鋳造管理規定」ではロダン生前と没後国立ロダン美術館の管理下での鋳造のあり方と、フランスにおいて鋳造者と彫刻家、競売吏、画廊の4者で取り決められた美術鋳造の倫理（現定数、オリジナルとマルティプルの規定など）が紹介されました。続いて、別館として佐藤忠良記念館を持つ宮城県美術館の三上満良氏による「日本における彫刻鋳造管理の事例……佐藤忠良作品の場合」では、当初は原型を財団が管理し鋳造販売を前

提に限定数を設定していたものの、BWGでの研究などを踏まえ、現定数に達していなくても没後は鋳造しないことを作家と取り決めた、という先進的な事例が報告されました。そして同日午後には、美術館としての望ましい在り方についてのBWGからの提言を愛知県美術館村田真宏氏が説明し、質疑応答を受けました。この提言は、作家の著作物としての「作品」は、原型から直接鋳造したものであるこ

とは勿論、作家自身によって確認されたことが要件であり、没後鋳造は複製や版画の後刷りのようなものとして取り扱うべきという厳密なものです。美術館がこれまで収蔵・展示してきたブロンズに問題を投げかけるものでもありますが、本研修のため特別にお借りした中原悌二郎の数少ない生前鋳造と没後鋳造のあまりの違いなど、実物の説得力は参加者の心を大きく動かしたようでした。

（愛知県美術館 深山 孝彰）

#### <自然科学部門研修会報告>

平成13年度自然科学部門研修会は、平成14年2月6日(水)、「中央構造線沿いの岩石露頭の見学と資料採集」をテーマに、南設楽郡鳳来町において開催されました。県内の博物館、資料館から12名の参加者があり、鳳来寺山自然科学博物館の横山良哲館長、加藤貞亨学芸員の案内により、岩石の観察や標本用の資料採集を行いました。観察地点と内容は下記のとおりです。

A. 黄柳野地区内（西南日本外帯：三波川変成帶）

蛇紋岩、緑色片岩、黒色片岩、カンラン岩（アラレ石）



#### B. 長篠地内（中央構造線）

ミロナイト（花崗岩源圧碎岩）

#### C. 玖老勢地内長楽（西南日本内帯：領家變成帶）

閃緑岩（清崎花崗岩）、片麻岩

#### D. 海老地内双瀬～入洞（設楽層群：堆積岩類、火成岩類）

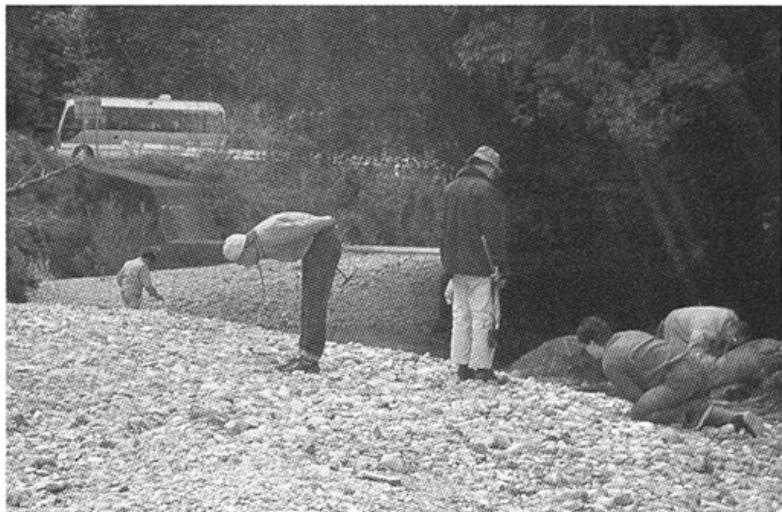
砂岩、泥岩、安山岩、石英安山岩、松脂岩、オパール（蛋白石）

横山館長の説明によれば、鳳来町は日本最大の断層帯中央構造線が北東から南西へ貫き、構造線の北側に領家變成帶、南側に三波川變成帶が分布しています。領家變成帶の上には、海底の堆積物と火山活動によって形成された設楽群層があります。このような変化に富んだ地質により多様な鉱物、岩石が産出し、珍しい鉱物をもとめてこの地を訪れる研究者、愛好家も多いそうです。

研修会は、鳳来町役場の駐車場に集合した後小型バスで各観察地点を巡り、岩石や露頭の説明を受けたり、実際に岩石ハンマーを使って露頭の岩を碎いて標本を採集したりしました。黄柳野地区の透輝石、蛇紋岩中のあられ石など、見た目の美しい鉱物も多く楽しい作業でした。海老地内では、稀に松脂岩中に含まれるオパー

ルが見つかるということで、参加者のハンマーを持つ手にも力が入ったようでした。

さて、今回の研修会には、私を含め歴史民俗系の博物館から参加した方もいました。観察、採集した岩石の中には、先史時代に石器の石材として用いられたものが多く含まれていたからです。私も子供を対象とした講座で、教材として使う複製石器を製作する機会があり、今回の研修内容に興味をもち参加を申し込みました。普段は石器として人の手が加わったものをみていますが、研修会ではそれらの石材の産出状況をみることができ、古代の人々がどのように石材入手していたかを考える上で貴重な体験をすることができました。蛇紋岩、緑色片岩、松脂岩、安山岩など、主に石斧や石鎌の石材となる岩石を採集しまし



たが、いずれこれらの石材を使った石器作りにも挑戦してみたいと思います。

最後にこの研修会を企画、準備していただいた方々に心よりお礼を申し上げます。

（愛知県教育委員会文化財保護室 原田 幹）

## 公開!! 愛博協ホームページ

昨今インターネットの普及はめざましく、多くの人がその環境を享受しています。近い将来、ホームページによる情報提供は、無視できない有力な手段となることでしょう。しかし、一口にホームページと言っても、なにが出来て、どういう利点があるのか、漠然としていてわからない方もおいでになると思います。新しいメディアにつきもののわかりにくさ故のことでしょう。こうした状況をうけ、博物館協会では「在り方検討委員会」を立ち上げ、ホームページによるサービスを検討してきました。



昨秋にはアンケートをおこない、7割を越える館・園から参加・協力のお返事をいただきました。その結果をうけ、ホームページの試行版を改変し、この1月から試験的に公開しています。



愛博協ホームページでめざしたものは、次の3つです。

まず、各館ホームページへのリンク集です。簡単に言えば、博物館ホームページの電話帳づくりです。リストアップしておくことで、広大なインターネットのなかで、希望の館までたどり着くのが容易になります。

2つ目は、各館の展覧会・イベント情報を串刺し的に概観できることです。各館のホームページではその館のイベントしかわからせん。ど

の博物館で、どういう展覧会が開催中かというリアルタイム情報はサービスの大きな柱です。

しかし、この情報のメンテナンスには、多大な労力がかかります。片手間ができるような業務量ではありません。そこで、この展覧会・イベント情報は、相互補完サイトの「ドットミュージアム」で提供することとします。この「ドットミュージアム」と、愛博協ホームページはシームレスに移動できますので、利用者の方には一体のものと認識される筈です。

3つ目は、仮想総合博物館構想です。小学生から宿題の問い合わせで困った経験はありませんか。専門職員がないので、答えられないということで、他館を紹介するという「たらい回し」をしたことがありませんか。県下の各博物館・美術館・資料館・動植物園・水族館等々が仮想の総合博物館として対応すれば、ホームページ上に広範な知識が集積され、きめ細やかなサービスができるはずです。

さて、愛博協ホームページは、検討段階から、予算化を伴う事業として運営段階に入ります。運営経費が認められれば、独自ドメインの取得と、自主運営が可能となります。反面、「公開」にともなう社会的な責任や、継続的に発展維持させていく義務も生じてきます。

加盟各館の特に若手のみなさん、新しい博物館サービスを作り上げるために今後の運営に係わっていただけませんか。



成功させよう国際博覧会

「愛知の博物館」 No.74

発行日 平成14年3月31日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒467-0806

名古屋市瑞穂区瑞穂通1-27-1

名古屋市博物館内

TEL (052) 853-2655

FAX (052) 853-3636

<http://www.nihondisplay.co.jp/aihaku/>